



## 前提条件とガイドライン

- [概要](#) (1 ページ)
- [前提条件](#) (1 ページ)
- [アップグレードのガイドライン](#) (3 ページ)
- [HyperFlex ソフトウェアのバージョン](#) (6 ページ)
- [サポートされているアップグレードパス](#) (7 ページ)
- [1.8.x HyperFlex クラスタのアップグレード](#) (12 ページ)
- [1.7.x HyperFlex クラスタのアップグレード](#) (12 ページ)
- [SED 対応システムのアップグレード](#) (13 ページ)
- [注意事項と推奨事項](#) (13 ページ)

### 概要

Cisco HyperFlex システムで Cisco HX Data Platform および Cisco UCS サーバファームウェアをアップグレードする前に、この章で説明するガイドライン、ベストプラクティス、および推奨事項を考慮してください。

### 前提条件

1. このリリースにアップグレードして新機能を確認する前に、解決済みの問題と未解決の問題を参照してください。最新の「[Cisco HX Data Platform Release Notes](#)」を参照してください。
2. サポートされているバージョンとシステム要件を確認してください。詳細については、「[Hardware and Software Interoperability for Cisco HyperFlex HX-Series](#)」を参照してください。



## 重要

- 最新のソフトウェア バンドル バージョンであることを確認し、ソフトウェア バージョンを確認してください。最新の「[Cisco HX Data Platform Release Notes](#)」を参照してください。
- すべてのサーバのオペレーティング システムのドライバ レベルが、アップグレード予定の Cisco UCS のリリースに対して正しいレベルになっていることを確認します。サーバ ハードウェアの識別については、『[Cisco UCS Driver Installation Guide](#)』を参照してください。

3. 設定を **All Configuration** バックアップ ファイルにバックアップします。詳細な手順については、『[Cisco UCS Manager Backing Up and Restoring the Configuration Guide](#)』を参照してください。
4. ファームウェアのアップデートを実行する前に、Cisco UCS Manager ファームウェア管理 インターフェイスを使用して、ファブリック インターコネクトに関連するイメージをダウンロードします。イメージはファブリック インターコネクトのブートフラッシュのパーティションに保存されます。詳細については、[ソフトウェアのダウンロード](#)を参照してください。
5. Cisco HyperFlex HX Data Platform の新しいバージョンにアップグレードすると、ESXi のアップグレードが必要な可能性があります。[HyperFlex ソフトウェアのバージョン \(6 ページ\)](#) の各 HX Data Platform バージョンについては、サポートされているバージョンを参照してください。
6. SSH をすべての ESXi ホストで有効なままにしておきます。
7. vMotion vmkernel アダプタでは、デフォルトの TCP/IP スタックのみサポートされています。
8. アップグレード中に VM が自動的に移行され、環境の要件に応じて MTU が設定されるよう、vMotion を有効にします。VM カーネル インターフェイスの追加について、詳しくは [vMotion インターフェイスの設定](#) を参照してください。
9. コンピューティング ノードが含まれるクラスタを再登録した場合は、コンピューティング ノードが再び追加されていることを確認します。クラスタのアップグレードを試みる前に、`stcli node add` コマンドを使用します。  
  
Example:  

```
# stcli node add --node-ips <computeNodeIP> --controller-root-password <ctlvm-pwd> --esx-username <esx-user> --esx-password <esx-pwd>
```
10. HyperFlex クラスタが正常であることを確認します。詳細については、[HyperFlex ノードのアップグレードの検証](#)を参照してください。
11. クラスタが寛容 (lenient) モードであることを確認します。クラスタが寛容 (lenient) モードでない場合は、寛容 (lenient) モードに設定します。[寛容モードの設定](#)を参照してください。

# アップグレードのガイドライン

以下に、HyperFlex システムのアップグレードを実行する際の重要な基準を記載します。

- **Hypercheck ヘルス チェック ユーティリティ:** アップグレードする前に、Hypercheck クラスタでこの予防的ヘルス チェック ユーティリティを実行することを推奨します。これらのチェックにより、注意が必要なエリアがすぐに見やすくなり、シームレスなアップグレードエクスペリエンスを保証します。Hypercheck のインストールと実行の詳細な手順については、「[technote](#)」を参照してください。
- **ソフトウェア Advisory M5 ESXi 6.0 クラスタの:** ESXi 6.0 で実行されているクラスタは、関連する [ソフトウェア Advisory](#) を注意深く確認します。
- **必要な vCenter のアップグレード:** セキュリティを強化するために、HXDP リリース 3.0(1a) 以降では TLS 1.2 を使用する必要があります。そのため、HX 3.0 にアップグレードする前に、vCenter 6.0 U3c 以降にアップグレードする必要があります。さらに、ESXi を 6.0 U3 または 6.5 U1 にアップグレードし、HXDP 3.0 互換性要件を満たす必要があります。
- **アップグレード対象の最小 HXDP バージョン:** 1.8(1f) 以降を実行中の HXDP クラスタは、3.0 に直接アップグレードできます。
- **HX Data Platform 1.7.x および 1.8.x クラスタ:** 1.7.x または 1.8.x (ただし 1.8(1f) より前) からアップグレードする場合は、3.0 以降のリリースにアップグレードする前に、中間バージョンを通過する必要があります。詳細については、『[Cisco HyperFlex Systems Upgrade Guide](#)』を参照してください。
- **クラスタの対応状況:** アップグレードを進める前に、クラスタが適切にブートストラップされて、更新済みプラグインがロードされていることを確認します。アップグレードには必ずクラスタのブートストラップが必要です。
- **アップグレードの開始:** 2.5(1a) より前のリリースからアップグレードする場合は、CLI `stcli` コマンドまたは vSphere Web Client の HX Data Platform Plug-in を使用します。2.5(1a) 以降のリリースからアップグレードする場合は、HX Connect UI を使用します。アップグレードに Tech Preview UI (2.5 より前のリリース) を使用しないでください。
- **アップグレードの完了—アップグレードウィンドウでは、一時的に自己修復(または再調整)が無効になっています。** アップグレードが失敗する場合、できるだけ早くアップグレードを完了する必要があります。
- **vSphere 5.5 のアップグレード:** vSphere 5.5 を使用している場合、HX Data Platform のアップグレードを開始する前に 6.0 U3/6.5 U1 にアップグレードする必要があります。vSphere 5.5 のサポートは HX Data Platform 2.5(1a) で廃止されたため、アップグレードしようとしても失敗します。
  - HX220 で 5.5 を実行している場合は、TAC に連絡してアップグレードの支援を求めてください。
  - HX240 で 5.5 を実行している場合は、次の順序でコンポーネントをアップグレードします。

1. vCenter を 6.0 U3c または 6.5 UI にアップグレードします。6.5 にアップグレードする場合は、vCenter のインプレース アップグレードが必要です。5.5 から移行する場合、新しい vCenter 6.5 の使用はサポートされません。
2. オフライン zip バンドルを使用して ESXi を 6.0/6.5 にアップグレードします。




---

(注) ESXi のアップグレードが完了してホストが再起動した後、vCenter で手動で ESXi ホストに再接続しなければならない場合があります。

---

3. HX Data Platform を（必要に応じて UCS ファームウェアも）アップグレードします。

• vSphere 6.5 にアップグレードする場合：

- 特定のクラスタ機能（ネイティブ/スケジュールスナップショット、ReadyClones、HX メンテナンス モードの開始/終了など）は、アップグレードの開始時から 2.5 以降への HX Data Platform のアップグレードが完了するまで動作しません。
- オフライン zip バンドルを使用して ESXi をアップグレードした後、ESX の [Exit Maintenance Mode] オプションを使用します。HX Data Platform のアップグレードが完了するまでは、vSphere Web クライアント内で ESX の [メンテナンス モード] の終了 (Exit Maintenance Mode) ] オプションは動作しません。

• vSphere 6.0 のアップグレード：vSphere 6.0 を 6.5 に移行する場合は、次の順序でコンポーネントをアップグレードします。

1. HX Data Platform を（必要に応じて UCS ファームウェアも）アップグレードします。
2. VMware のマニュアルとベスト プラクティスに従って vCenter サーバをアップグレードします。必要に応じて、新しい vCenter サーバを導入し、`stcli cluster reregister` を実行します。
3. オフライン zip バンドルを使用して ESXi を 6.5 にアップグレードします。

• M4 サーバのファームウェアのアップグレード：円滑な動作を確実にして、既知の問題を修正するには、サーバファームウェアをアップグレードする必要があります。特に、長期間にわたる安定性を確保するために、このリリースで使用可能になった新しい SAS HBA ファームウェアを推奨します。



(注)

- 可能な場合は常に、3.1(3c)以降のCバンドルにアップグレードするようにしてください。
- 3.1(2f)より前のバージョンのCバンドルを使用している場合は、UCSサーバファームウェア (Cバンドル) のコンバインドアップグレードを行って、サーバファームウェアを3.1(3c)以降に、HX Data Platform を2.5にアップグレードする必要があります。これらのアップグレードを2つの別々の操作に分割しないでください。
- クラスタがすでに3.1(2f)以降のCバンドルで稼働している場合、必要に応じて HX Data Platform のみのアップグレードまたはコンバインドアップグレードを実行できます。

- M5 サーバファームウェアのアップグレード : M5 世代のサーバでは、ファームウェアバージョン 3.2(1d) 以降を実行する必要があります。
- ファームウェア ダウングレード — HX-installer から UCSM のダウングレードはサポートされていません。
- M4/M5 の混在ドメイン : 既存の M4 クラスタが含まれる UCS ドメインに新しい別個の M5 クラスタをインストールすると、同じドメインに M4 と M5 が混在することになります。このような場合、オーケストレーションされた UCS サーバファームウェアのアップグレードは、M4 クラスタに HX Data Platform 2.6 以降がインストールされるまで動作しません。したがって、最初に UCS サーバファームウェアを最新の 4.0(1) パッチ リリースにアップグレードしてから、既存の UCS ドメインに新しい M5 クラスタを追加することがベストプラクティスとなっています。さらに、新しい M5 クラスタを 1.7 HX Data Platform クラスタと同じドメインに追加する場合は常に、1.7 HX Data Platform クラスタを最初にアップグレードする必要があります。
- メンテナンス時間枠 : HX Data Platform と UCS ファームウェアの両方をアップグレードする場合、メンテナンス時間枠の大きさに応じて、vSphere HX Data Platform Plug-in を介したコンバインドアップグレードまたは分割アップグレードのいずれかを選択できます。Cisco UCS Manager によるサーバファームウェアの自動インストールを使用した直接的なファームウェアアップグレードは試行しないでください。代わりに、HX Data Platform に用意されている UCS サーバアップグレードオーケストレーションフレームワークを使用します。
- SED を使用した HX Data Platform 2.1(1b) : 2.1 を実行している SED 対応のシステムをアップグレードする場合は、UCS インフラストラクチャとサーバファームウェアのアップグレードが必要です。

# HyperFlex ソフトウェアのバージョン

Cisco HX Data Platform インストーラ、Cisco HX Data Platform、および Cisco UCS ファームウェアといった HX のコンポーネントは、さまざまなサーバにインストールされます。HX Storage Cluster とともに（またはその内部で）使用される各サーバの各コンポーネントに互換性があることを確認します。

- **HyperFlex は、UCS Manager および UCS Server Firmware バージョン 4.0(4a)、4.0(4b)、4.0(4c) をサポートしていません。**



## 重要

これらのファームウェアバージョンにアップグレードしないでください。

これらの UCS Manager のバージョンにアップグレードしないでください。

- 事前設定された HX サーバと、インストールされている Cisco UCS サーバファームウェアのバージョンが同じであることを確認します。Cisco UCS ファブリック インターコネクト (FI) のファームウェアバージョンが異なる場合は、ファームウェアのバージョンを調整する手順について、『[Cisco HyperFlex Systems Upgrade Guide](#)』を参照してください。
- **M4:** 新しいハイブリッドまたはオール フラッシュ (Cisco HyperFlex HX240c M4 または HX220c M4) の導入の場合は、Cisco UCS Manager 3.1(3j) 以降がインストールされていることを確認してください。詳細については、Cisco TAC にお問い合わせください。
- **M5:** 新しいハイブリッドまたはすべてのフラッシュ (Cisco HyperFlex HX240c M4 または HX220cM5) 展開については、Cisco UCS Manager 3.2 (3i) またはそれ以降がインストールされていることを確認してください。
- SED ベース HyperFlex システムについては、A (インフラストラクチャ) および C (ラックサーバ) バンドルが、M4 SED システムに対して Cisco UCS Manager バージョン 3.1(3h) またはそれ以降です。すべてのバンドルが M5 SED システムに対して、Cisco UCS Manager バージョン 3.2(3i) 以上であることを確認します。
- HX サーバを再インストールするには、サポートされている互換性のあるソフトウェアのバージョンをダウンロードします。要件と手順については『[VMware ESXi 向け Cisco HyperFlex システム インストール ガイド](#)』を参照してください。
- Cisco UCS Manager バージョン 4.0(1a) は、HX データ プラットフォーム バージョン 3.0(1e) 以降でサポートされています。

表 1: M4/M5 サーバの HyperFlex ソフトウェア バージョン

HyperFlex リリース	M4 推奨 FI/サーバファームウェア *(上記の重要な注意事項を必ず確認してください)	M5 推奨 FI/サーバファームウェア *(上記の重要な注意事項を必ず確認してください)
3.0(1i)	3.2(3h)、3.1(3j)	3.2(3h)
3.0(1h)	3.2(3h)、3.1(3j)	3.2(3h)
3.0(1e)	3.2(3h)、3.1(3j)	3.2(3h)
3.0(1d)	3.2(3h)、3.1(3h)	3.2(3h)
3.0(1c)	3.2(3h)、3.1(3h)	3.2(3h)
3.0(1b)	3.2(3d)、3.1(3h)	3.2(3d)
3.0(1a)	3.2(3d)、3.1(3f)	3.2(3d)
2.6(1e)	3.2(3d)、3.1(3f)	3.2(3d)
2.6(1d)	3.2(3d)、3.1(3c)	3.2(3d)
2.6(1b)	3.2(2d)、3.1(3c)	3.2(2d)
2.6(1a)	3.2(2d)、3.1(3c)	3.2(2d)

## サポートされているアップグレードパス

次の4つのテーブルマトリックスは、サポートされている Cisco HyperFlex Systems のアップグレードパスをマップします。

### Cisco HX Data Platform マトリックス

Cisco HX Data Platform 現在のバージョン	サポートされているアップグレードパス 目的のバージョン					
	3.0(1x)	2.6(1x)	2.5(1x)	2.1(1x)	2.0(1x)	1.8(1x)
2.6(1x)	Yes	—	—	—	—	—
2.5(1x)	あり	あり	—	—	—	—
2.1(1x)	あり	あり	あり	—	—	—
2.0(1x)	あり	あり	あり	あり	—	—

Cisco HX Data Platform 現在のバージョン	サポートされているアップグレードパス					
	目的のバージョン					
1.8(1f)	あり	あり	あり	あり	あり	—
1.8(1a) ~ 1.8(1e) <a href="#">1</a>	—	あり	あり	あり	あり	—
1.7.x <a href="#">2</a>	—	—	—	あり	あり	あり

<sup>1</sup> 1.8.1a ~ 1.8.1e から 2.6(1x) より後のリリースへの直接アップグレードはサポートされていません。詳細については、[1.8.x HyperFlex クラスタのアップグレード \(12 ページ\)](#) を参照してください。

<sup>2</sup> 1.7.x から 2.1(1x) より後のリリースへの直接アップグレードはサポートされていません。詳細については、[1.7.x HyperFlex クラスタのアップグレード \(12 ページ\)](#) を参照してください。

### Cisco UCS Manager マトリックス

Cisco UCS Manager 現在のバージョン	サポートされているアップグレードパス									
	目的のバージョン									
	3.2(3g)	3.2(3d)	3.2(2d)	3.1(3j)	3.1(3h)	3.1(3f)	3.1(3c)	3.1(2g)	3.1(2f)	3.1(2b)
3.2(3d)	Yes	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3.2(2d)	あり	あり	—	—	—	—	—	—	—	—
3.1(3h)	あり	あり	あり	あり	—	—	—	—	—	—
3.1(3f)	あり	あり	あり	あり	あり	—	—	—	—	—
3.1(3c)	あり	あり	あり	あり	あり	あり	—	—	—	—
3.1(2g)	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	—	—	—
3.1(2f)	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	—	—
3.1(2b)	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	—

## VMware ESXi マトリックス

- ESXi 5.5 のサポートは HXDP 2.5 で廃止されました。
- HX220 で ESXi 5.5 U3 を実行している場合のアップグレードのガイダンスについては、TAC にお問い合わせください。
- HX240 で ESXi 5.5 U3 を実行している場合、詳細については、[アップグレードのガイドライン \(3 ページ\)](#) を参照してください。
- ESXi 6.0 U1 バージョンの場合、ESXi のアップグレードを推奨します。PSOD や OS のクラッシュのためにノードが応答しなくなるという既知の VMware の問題があります。VMware KB の記事、『[VMware ESXi 6.0, Patch ESXi600-201608401-BG: Updates esx-base, vsanhealth, vsan VIBs \(2145664\)](#)』を参照してください。



**注目** TLS 1.2 をサポートするには vCenter 6.0 U3c 以降へのアップグレードが必要です。HX クラスタをアップグレードする前に、必ず vCenter をアップグレードしてください。

VMware ESXi 現在のバージョン	サポートされているアップグレードパス				
	目的のバージョン				
	6.5 U2	6.5 U1	6.0 U3	6.0 U2 (すべてのパッチレベル)	6.0 U1b
6.5 U1	Yes	—	—	—	—
6.0 U3	あり	あり	—	—	—
6.0 U2 (すべてのパッチレベル)	あり	あり	あり	—	—
6.0 U1b	あり	あり	あり	あり	—
5.5 U3 (HX240c でのみ)	あり	あり	あり	あり	あり

## Cisco UCS Manager でサポートされる Cisco HX Data Platform のバージョン

Cisco UCS Manager のバージョン	Cisco HX Data Platform						
	3.0(1x)	2.6(1x)	2.5(1x)	2.1(1x)	2.0(1x)	1.8(1x)	1.7.x
3.2(3g)	Yes ハイブリッド、 オールフラッシュ、M4 サーバ、および M5 サーバをサポート	Yes ハイブリッド、 オールフラッシュ、M4 サーバ、および M5 サーバをサポート	—	—	—	—	—
3.2(3d)	Yes ハイブリッド、 オールフラッシュ、M4 サーバ、および M5 サーバをサポート	Yes ハイブリッド、 オールフラッシュ、M4 サーバ、および M5 サーバをサポート	—	—	—	—	—
3.2(2d)	Yes ハイブリッド、 オールフラッシュ、M4 サーバ、および M5 サーバをサポート	Yes ハイブリッド、 オールフラッシュ、M4 サーバ、および M5 サーバをサポート	Yes ハイブリッド、 オールフラッシュ、 および M4 サーバをサポート	Yes ハイブリッド、 オールフラッシュ、 および M4 サーバをサポート	Yes ハイブリッド、 オールフラッシュ、 および M4 サーバをサポート	Yes	—

Cisco UCS Manager のバージョン	Cisco HX Data Platform						
	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	—
	3.1(3j)	ハイブリッド、オールフラッシュ、および M4 サーバをサポート	ハイブリッドとオールフラッシュをサポート	ハイブリッドとオールフラッシュをサポート	ハイブリッドとオールフラッシュをサポート	ハイブリッドとオールフラッシュをサポート	
	3.1(3h)	ハイブリッド、オールフラッシュ、および M4 サーバをサポート	ハイブリッドとオールフラッシュをサポート	ハイブリッドとオールフラッシュをサポート	ハイブリッドとオールフラッシュをサポート	ハイブリッドとオールフラッシュをサポート	
	3.1(3f)	ハイブリッド、オールフラッシュ、および M4 サーバをサポート	ハイブリッドとオールフラッシュをサポート	ハイブリッドとオールフラッシュをサポート	ハイブリッドとオールフラッシュをサポート	ハイブリッドとオールフラッシュをサポート	
3.1(3c)	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	—
	ハイブリッド、オールフラッシュ、および M4 サーバをサポート	ハイブリッドとオールフラッシュをサポート	ハイブリッドとオールフラッシュをサポート	ハイブリッドとオールフラッシュをサポート	ハイブリッドとオールフラッシュをサポート	ハイブリッドとオールフラッシュをサポート	

Cisco UCS Manager のバージョン	Cisco HX Data Platform						
3.1(2g)	—	Yes ハイブリッドと オールフラッシュ をサポート	Yes ハイブリッドと オールフラッシュ をサポート	Yes ハイブリッドと オールフラッシュ をサポート	Yes ハイブリッドと オールフラッシュ をサポート	Yes	—
3.1(2f)	—	—	—	—	Yes ハイブリッドと オールフラッシュ をサポート	Yes	—
3.1(2b)	—	—	—	—	Yes ハイブリッドを サポート	Yes	—

## 1.8.x HyperFlex クラスタのアップグレード

『サポートされていない Cisco Hx リリースの Cisco HyperFlex システム アップグレード ガイド』に記載されている現在のアップグレードパスに従う必要がある HXDP 1.8x を実行しているクラスタを持つユーザー。

## 1.7.x HyperFlex クラスタのアップグレード

『サポートされていない Cisco HX リリースの Cisco Hyperflex システム アップグレード ガイド』の「Cisco Hyperflex 1.7 のアップグレード」セクションを参照する必要がある HXDP 1.7x を実行しているクラスタを持つユーザー。

## SED 対応システムのアップグレード

SED 対応システムとは、自己暗号化ドライブ (SED) がインストールされた、HXDP 2.1(1b) を実行している HyperFlex クラスタを指します。この場合、UCS Manager を 3.1(3c) 以降にアップグレードする必要があります。さらに、UCS サーバファームウェア (C バンドル) を 3.1(3c) 以降にアップグレードする必要もあります。HX Connect でキー管理を有効にする前にすべてのクラスタ ノードがアップグレードされている限り、コンバインドアップグレードまたは分割アップグレードのどちらでも使用できます。



### 注意

アップグレード中に、フラグベースのチェック (True または False) がシステムが SED 対応かどうかを判断するために使用されます。システムが SED 対応である場合、このフラグ (true に設定) は非 SED システムがクラスタの一部になることが許可されません。クラスタの SED 機能情報を収集されたときに問題がある場合、アップグレードのスクリプトはデフォルト値(False)に、このフラグを切り替える可能性があります。その場合、ノード上のすべての SED ドライブが非 SED ディスクと置き換えられ、アップグレードは同様に、非 SED ディスクで実行されます。最終的、非暗号化形式で、そのノード上のデータを書き込んでしまうリスクがあります。

## 注意事項と推奨事項

Cisco HyperFlex System のアップグレードを開始する前に、次の注意事項、ガイドライン、および制限事項を考慮してください。



### 重要

- HX220 上の VMware ESXi をバージョン 5.5 U3 からアップグレードする必要がある場合は、Cisco TAC までお問い合わせください。
- HyperFlex リリース 3.5 (1a) 以降を実行している場合は、HX Connect UI から自動ブートストラッププロセスを実行して Cisco HX データ プラットフォームをアップグレードできます。[\(HX Connect UI からの自動ブートストラップアップグレードプロセス\)](#)。  
ただし、リリース 3.5 (1a) よりも前である HyperFlex リリースを実行している場合に示すように、手動ブートストラッププロセスを実行して Cisco HX データ プラットフォームをアップグレードする必要があります。[\(手動ブートストラップアップグレードプロセス\)](#)。
- CLI を使用して GUI をアップグレードすると、使いやすくなり、レポート作成機能が改善されます。
- アップグレードが完了したら、使用するブラウザインターフェイスごとに、キャッシュを空にしてブラウザにページをリロードし、HX のコンテンツを更新してください。

- アップグレードやその他のメンテナンス作業を行う前に、（コンピューティングノードを含む）すべてのノードが稼働中であり、クラスタが正常な状態であることを確認してください。
- Cisco HX Data Platform と Cisco UCS ファームウェア バンドルには互換性が必要です。詳細については、『[UCS Hardware and Software Compatibility Matrix](#)』を参照してください。
- 分割アップグレードを行う場合、最初に Cisco HX Data Platform を更新してから、Cisco UCS ファームウェアを更新する必要があります。
- オンラインアップグレード中に、1つのノードがアップグレードされる（メンテナンスモードになる）と、**データ リプリケーション ファクタ**と**アクセス ポリシー**の設定に基づいて、許容されるノード障害の数が削減されます。
- vMotion vmkernel アダプタでは、デフォルトの TCP/IP スタックのみサポートされています。
- Cisco HyperFlex ドメインのすべてのエンドポイントが完全に機能しており、それらのエンドポイントのファームウェアのアップグレードを開始する前に、すべてのプロセスが完了している必要があります。たとえば、検出されていないサーバのファームウェアはアップグレードまたはダウングレードできません。各エンドポイントは、Cisco HyperFlex ドメイン内のコンポーネントであり、機能する上でファームウェアが必要です。
- 3 ノードクラスタでは、1つのノードをシャットダウンするかメンテナンスモードにすると、クラスタは正常な状態ではなくなりますが、引き続きオンラインの状態に保たれます。手動でメンテナンスを行う必要がある場合、ホストを一度に1つずつメンテナンスモードにします。次のホストでの作業に移るのは、クラスタが正常な状態になってからにしてください。HXDP および UCS サーバファームウェアでは、このプロセスは自動的に行われます。



(注) **stcli** ノードの削除操作によって、3 ノードクラスタからノードを削除することはできません。3 ノードクラスタ上のノードを置換するには、Cisco TAC にノードの置換手順について問い合わせてください。